



(大阪東北部)

## 大阪・大坂城跡(1)

所在地 大阪市中央区大手前二丁目  
調査期間 一九八九年(平1)四月～六月  
発掘機関 大阪府教育委員会

調査担当者 佐久間貴士

遺跡の種類 城郭跡

遺跡の年代 安土桃山時代～江戸時代

遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は大阪府警察本部の施設増築に伴うもので、約1110m<sup>2</sup>を発掘した。その結果江戸時代の遺構面と豊臣期の遺構面を検出した。

この地点は天正二年(一五八三)の大坂城築城時に城下町として整備されたが、慶長三年(一五九八)の三の丸増築によって、三の丸内に取り込まれた。

検出された豊臣期の遺構はこの三の丸の時期のもので、礎石建物一棟と深さ一

・五m、幅一m以上の堀が発見された。木簡はこの堀の中から多量の木製品や陶磁器・炭化米などと共に出土した。礎石建物の西側には獸骨を多く含むゴミの層があり、堀の中にまで流れ込んでいた。このことから木簡は三の丸内の居住者によつて日常生活の生ゴミ等と共に投棄されたものと考えられる。三の丸の遺構は慶長一九年大坂冬の陣の直後に壊平され、堀も埋められてしまった。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「〔しカ〕  
〔□うろ□〕」

(2) 「▽小□五つ入□□」

・「▽□――――」

218×28×2 033

171×34×6 033

木簡は計四点で、四点とも形態から荷札・付札と考えられるが、右の一以外は判読できていない。(1)の「しうら」は棕櫚(しゅうら)のことであろうか。(2)は品物名が「小□」で、数量が「五つ入」の意。豊臣期の木簡ではこの下に普通は差出人名がくるが判読できなかつた。

木簡解説について大阪城天守閣の渡辺武・内田九州男・北川央の各氏の御教示を得た。

## 9 関係文献

大阪府教育委員会『大坂城跡発掘調査概要Ⅱ』(一九九〇年)  
(佐久間貴士)